

アジアビジネス展開研究&視察活動！Ⅲ

ベトナム・カンボジア視察 レポート

当所では、アジアへのビジネス展開を検討している、関心がある事業所を対象に、主にアセアン地域の国々を取り上げ、そのビジネス活動について考える勉強会、通称「アジア研！」を開催しています。3年目を迎えた今年度は、現地視察をメインとして、10月に「製造業編（ベトナム・カンボジア）」、11月に「非製造業編（タイ・ベトナム）」を実施しました。今月は、製造業編の視察結果についてレポートします。
(非製造業編については、2月号に掲載します。)



授業の様子を視察

た。

② 日本への技能実習生

派遣企業視察

ハノイとホーチミンで、日本へ技能実習生を派遣するために、ベトナム人への日本語教育などを行う企業を視察しました。ハノイでは、翌日に日本企業との面接を控えたクラスの授業を見学することができ、日本語での挨拶、お辞儀等きびきびとした立ち振る舞いに参加者も大変感心していました。尚、この企業によると、日本へ送り出した実

【日程】
10月18日(日)～23日(金)

【行先】
ハノイ、ホーチミン(ベトナム)、プノンペン(カンボジア)

【参加者】
福井県内の繊維、機械加工、印刷、物流業の経営者等16名

【内容】
① 日系企業視察(県内企業含む製造業5社)
② 日本への技能実習生派遣企業視察(2社)
③ 商業環境視察(4ヶ所)
④ ジェトロハノイ事務所訪問
⑤ 福井県企業・ジェトロ駐在員との交流会(3回)



カンボジア(奥)からベトナム(手前)へ陸路で国境越えの様子(ビジネスツアーでは人気)

視察には、コーディネーターとして、(独法)日本貿易振興機構(ジェトロ)の池部亮アジア大洋州課長(前福井県立大学地域経済研究所准教授)が同行し、道中解説を受けながら視察を行いました。
また、視察に先立って勉強会を開催し、池部コーディネーターからベトナム・カンボジアの経済事情や歴史・文化、視察先のこれまでの背景等の解説を受け、基礎知識を頭に入れて視察に臨みました。

主な視察結果

① 日系進出企業視察

ハノイの進出企業は、過去に福井本社で受入れたベトナム人実習生を帰国後現地で雇用して、現地従業員を統率させ、実績を上げつつあります。また、プノンペンの進出企業は、中国の自社工場と比較して生産量が50%、生産性は1/3程度という状況で、日本式の研修を取り入れ、生産性向上を図るなど、現地従業員の労働管理に苦労し



進出企業の工場内を視察

習生は、ベトナム帰国後70%が日系企業に就職するそうです。

③ 商業環境視察

プノンペン、ホーチミンのイオンモール等を見学しました。日本と同じようなフロア構成、設えで、日系企業が多くテナント出店し、多くの来店者で賑わっていました。ちなみに、ハノイの食品スーパーでは、現地の米5kgが日本円で6000円程度の価格でした。

④ ジェトロハノイ事務所訪問

円安の状況もあってか大型の日系企業進出案件は減り、投資件数は増えていますが、総投資額は増えていないとのことでした。また、ベトナム進出の日系企業の66%が売上増の理由で今後も事業を拡大する方針ですが、一方でハノイのインフラはまだまだ不十分で、国内で広がる貧富の格差等の課題についても指摘がありました。

⑤ 福井県進出企業・

ジェトロ駐在員との交流会
訪れた3都市でそれぞれ開催し、訪問できなかった福井県企

業の方等総勢20名との交流会を開催し、現地情報や駐在環境等の意見交換を行いました。苦勞話も含め、現地ならではの生の声を聞く機会になりました。



交流会の様子

視察を終えて

今回の視察では、ベトナム、カンボジア両国のビジネス環境の違いを感じることができました。ベトナムでは、産業構造が高度化し、裾野産業におけるビジネスの場が増えつつあり、中小・小規模企業にも活躍の場が

もたらされています。池部コーディネーターは今後について、「賃金上昇ピッチと生産効率上昇のバランスが鍵」と指摘しました。

一方で、カンボジアは事業コストがインフレ気味で、賃金や輸送費の上昇が懸念されます。また、労働生産性が低いことや、人口規模が小さく、隣国への人材流出もあって労働力の供給面でも不安がみられるようです。

帰国後の事後報告会では、参加者から「両国のビジネス環境を肌で感じる事ができた。今後は具体的にアセアン進出を目指したい」「従業員に刺激を与えるため、ベトナム人実習生の受入れを検討したい」といった発言がありました。この視察が参加企業にとって今後のビジネス展開の一助となることを期待すると共に、当所としても関係機関と連携しながら支援に取り組んでいきたいと思えます。

「お問い合わせ先」
福井商工会議所 地域事業課
TEL 0776 (33) 8253